

11月

月間指導計画

3歳児



保育目標		<p>気の合う友だちとの遊びが広がっていくことを楽しむ。 はさみの使い方を理解し、曲線切りを楽しむ。</p>			
子どもの姿		<p>身の回りのことを自分からやろうとし、困っている友だちがいれば保育士に伝えようとする。 気持ちのぶつかり合いや、思い違いを保育士の仲立ちによって言葉にしようとする。</p>			
年間区別		ねらい	環境・構成	予想される子どもの活動	配慮事項
養護	生命	活動前の準備として、自分から排泄へ行こうとする。	寒暖差から排尿感覚が短くなったり、排尿したくて我慢している子もいるので、その日の活動を伝える際に排泄のタイミングも子どもたちと確認しておく。	遊びに夢中になり、排泄に間に合わない子もいる。	叱ったりせず、活動に入る前に必ず排泄へ誘ったり、声をかけるなどして、自分から排泄へ向かうことができるように個別に対応する。
	情緒	やりたいことと、我慢することを少しずつ理解しようとする。	活動にめりはりを付けて、静と動を意識した流れを作る。	活動に消極的な子もいる。	個々のできたことを認め、それぞれの目標に合わせて達成できるよう、無理ない活動期間を設ける。 個別でゆったりとかかわる時間を増やし、苦手なことにも安心して取り組めるようにする。
教育	健康	寒暖差に合わせて、自分から衣服を調節しようとする。 上着をハンガーにかける。	衣服やハンガーなど、使用しやすく整えておく。	ファスナーやボタンなど「できない」と言って保育士の元にくる子もいる。	少しずつ慣れていけるよう、保育士がファスナーを途中まで閉める。 ボタンの留め方を知らせるなど個別に対応し、できたことを褒める。
	人間関係	友だちと一緒に、なりきって動いたり、言葉でやりとりすることを楽しむ。	子どもの会話からイメージを引き出し、ごっこ遊びが発展するようなきっかけをつくる。	物の貸し借りや、遊びに入れないなど、小さなぶつかり合いが起こっている。	保育士を仲立ちとして言葉にし、相手の気持ちを理解できるようにする。
	環境	集めた落ち葉を使って、体に浴びたり、落ち葉の上に寝そべったりして楽しむ。	落ち葉を集めて山を作っておくなど、この時期ならではの活動が楽しめるようにする。 自分から集めることを楽しめるよう、身体に合った大きさのクマデを用意しておく。	秋の自然を全身を使って楽しんでいる。 新たな発見を言葉にして、保育士や友だちに伝えようとする。	戸外でしっかりと体を動かして遊べるよう、秋の自然物を使った様々な遊びを展開する。
	言語	保育士を通して、自分の思いを主張したり、相手の気持ちに気がつく。	気持ちのぶつかり合いが主題の絵本を読み、仲直りの方法など分かりやすく伝える。 相手の気持ちが分かるよう、その都度気持ちを代弁する。	困ったことがあると、保育士に伝えようとする子もいる。	友だちの思いに気づけたことを認め、一緒に遊ぶことの楽しさを遊びの中で伝えていく。
	表現	はさみの使い方を十分に理解し、はさみの曲線切りを楽しむ。	作品展に向けてじっくりと取り組めるよう、活動期間に余裕を持って取り組む。 作りたいもののイメージが膨らむよう、色々な材料や道具を準備しておく。	はさみを持って移動する時に、刃の方を持たない子もいる。	はさみの使い方を守ることで、自分も友だちも怪我を防げることを繰り返し伝え、自分から正しく使えるようにする。
食育		準備や片付けなど保育士と一緒にやる。 野菜や果物の名前を知る。	自分から手伝うことに喜びを感じられるよう、できたことを認め、十分に褒めて自信につながるようにする。 給食に入っている野菜や果物を知らせ、興味が持てるようにする。	慣れてくると、食事の準備をする友だちを見て、やりたい子どもが増えてくる。	当番制を少しずつ行うなど、グループ毎での食事の準備を、無理のない内容で取り入れていく。
健康・安全		肌寒くなってきたので、自分から衣服の調整が出来るように、薄手の上着などの準備をおたよりなどでお知らせする。			
保護者支援		作品展では、一人ひとりの取り組みの過程を知らせ、子どもなりの表現を家庭でも楽しめるよう個別で共有する。			